— Article —

動名詞が後続する英語前置詞 at, on, in の認知意味論的分析

田尾俊輔

A Cognitive Semantic Analysis of English Prepositions *At, On, In* Followed by the Gerund

Shunsuke TAO

Graduate School of Language and Culture, Osaka University, 1-8 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka, 560-0043, Japan

（Received October 31, 2022; Accepted December 23, 2022）

Abstract This paper discusses the senses of English prepositions *at, on*, and *in* followed by the gerund from a cognitive semantic point of view. We especially focus on the differences with previous analyses of the locative senses and the temporal senses of these prepositions. It is said that the gerund can express both a general situation and a concrete situation. This paper claims that these two patterns have an influence on how the temporal senses of *at, on*, and *in* followed by the gerund developed. As for the preposition *at*, not the sense of a point, which has been often discussed, but its abstract sense of a place plays an important role of introducing a situation loosely that the following gerund expresses.

Key words — English Prepositions, Gerund, Locative Senses, Temporal Senses

1. はじめに

英語の前置詞 at，on，in は主として at the station，on the ground，in the room のように場所的表現を後続させ，それがどのような場所であるかを説明するとされている．例えば，at the station では the station を俯瞰的に点のように捉える．on the ground では the ground に接触する部分に焦点を当てる．また，in the room では the room の外枠部分とその内部の位置関係を強調するとされる．そして，これらの場所的用法の拡張として，例文（1）のような時間的用法も成立する（以降，例文中の下線やイタリックは筆者によるものである）．（1a）では 6 月末を 1 つのまとまり，すなわち点としてまとめる．（1b）は山口（2011: 152-153）を参考にすると，1 週間のうちの土曜日に接する時間を指す[1]．また，（1c）は特定の夜の時間枠内のどこかの時点で火事が発生したことを表す．

（1） a. She will have arrived in France <u>at the end of June</u>. （安藤 2012: 13）[2]

b. I'll be at work <u>on Saturday</u>. （ジーニアス英和大辞典）[3]

c. The fire broke out <u>in the night</u>. （安藤 2012: 13）[2]

上述の典型的用法に加え，例文（2）の通り動名詞を伴って時間を表す場合もある．『ウィズダム英和辞典』によると[4]，（2a）の At hearing his name は When he heard his name に，（2b）の On getting out of my car は As soon as I got out of my car に，（2c）の In buying a car は When you buy a car にそれぞれ言い換えが可能とされる．

（2） a. <u>At *hearing his name*</u>, Bill turned back as he walked.

b. <u>On *getting out of my car*</u>, I noticed I'd shut the key inside.

e-mail：stoup.gl@gmail.com

c. In *buying a car*, what points are important?
（ウィズダム英和辞典）[4)]

（2）の前置詞と動名詞で構成される句が時間を表すとされる事例について，前置詞に（1）のような時間的表現が後続していれば，時間義と認定して差し支えないと思われる．しかしながら，(2) で後続しているのは動名詞である．となると，そもそも（2）の at，on，in を時間義として扱うのは適切なのかという問いが生じる．

そこで本稿では，動名詞が後続する英語前置詞 at，on，in の各意味について，認知意味論的視点から分析，考察を行う．特に at は，上ですでに言及した「点」およびその時間義への拡張（＝(1a)）というよりも，抽象的な「場」という意味によって，動名詞が表す事態を緩やかに導入する機能を有しているということを議論する．

本稿の構成は次の通りである．2 節では前置詞 at，on，in それぞれの場所義と時間義，並びに動名詞の機能について，先行研究を概観する．続く 3 節では動名詞が後続する際の前置詞 at，on，in それぞれの意味的ふるまいを分析，考察する．さらに，動名詞を後続要素に伴う at の特異性について 4 節で議論する．5 節は本稿のまとめである．

2. 先行研究概観

2.1 前置詞 at，on，in の場所義と時間義

本節では，at，on，in それぞれの場所義と時間義を概観し，その背景にある「点」，「接触」，「境界」の要素を確認する．

2.1.1 前置詞 at

場所を表す at の例文を以下の (3) に示す．(3a) は 10 Victoria Street と通りの番地を表しており，地図上の一点を見るように俯瞰していることがわかる．(3b) においても the station を俯瞰している．というのも，in the station とした時には駅の構内にいることが求められるのに対し，at the station は駅の構内だけでなく駅付近にいる場合にも使用可能となるためである（『ジーニアス英和大辞典』を参照[3)]）．ここでは the station は俯瞰され，抽象的に捉えられていると考えられる．

(3) a. They live at 10 Victoria Street.
（安藤 2012: 12）[2)]
b. I arrived at the station just in time. （*ibid.*）

このように at は場を点のように抽象化，曖昧化するといえるが，同時に場を導入するという重要な役割も担っている．例えば，(3a) は at 10 Victoria Street がなければ文として成立しづらい．また，(4) の called は場所を指す at my house があることで「立ち寄った」の意が明白になるが，この at 句がなければ「電話をかけた」とも解釈され得る．よって，at によって場所義が明確に付与されている．

(4) He called at my house on his way home.
（*ibid.*）

他方，(5) は「パーティの場で」とも「パーティの時に」とも訳せるため，場所義と時間義の双方に解釈可能な中間的事例である．時間を表す場合には，一時点を指す（6）との意味的差異はあまり感じられない．ただし，場所に付随して流れる時間を指すのか，それとも時間自体を指すのかという点で，(5) と (6) は本質的に異なる（田尾 2022: 34-35）[5)]．

(5) We met at a party. （安藤 2012: 12）[2)]
(6) a. There's a meeting at 2.30 this afternoon.
（安藤 2012: 13）[2)]
b. She will have arrived in France at the end of June. （＝（1a））

2.1.2 前置詞 on

場所を表す on の事例は (7) の通りである．(7a) の on the sofa のような表面だけでなく，(7b) の on the wall のような側面，(7c) の on the ceiling のような室内上面をも表すことができる．

（7） a. Jane is sitting on the sofa.
（安藤 2012: 71）[2]
b. A beautiful picture was hanging on the wall.
（安藤 2012: 72）[2]
c. Insects can walk on the ceiling.
（齋藤 2015: 562）[6]

また，（7）に見られる面だけでなく，（8）に示される犬とチェーンの繋ぎ目といったような接合点も表す．従って，より包括的に言えば，on は接触の意味を有しているといえる．

（8） The dog is on the chain.
（ジーニアス英和大辞典）[3]

on の接触は（9）のように時間概念上の接触も表す．（9）は on の時間義の具体例である．（9a）は一週間のうち土曜日に接し（cf. 山口 2011: 152-153）[1]，（9b）はひと月のうち 13 日という特定の日の晩に接することを指す．

（9） a. I'll be at work on Saturday. （＝（1b））
b. It happened on the evening of the 13th.
（安藤 2012: 72）[2]

2.1.3 前置詞 in

場所を表す in については（10）が主な例文として挙げられる．（10a）のように具体的な場所名を伴うこともあれば，（10b）のように暗がりの範囲を示すこともある．これらは境界とその内部が意識されているといえる．

（10） a. He lives in London. （安藤 2012: 42）[2]
b. Do you prefer to sit in the dark? （*ibid.*）

時間を表す in の例文（11）にも同様の指摘が当てはまる．（11a）は夏の期間という境界があり，（11b）は未来のことに言及し，6 週間という時間の境界がある．

（11） a. In summer, I usually go to the sea.
（安藤 2012: 43）[2]
b. The exams are in six weeks' time. （*ibid.*）

2.2 動名詞の機能

龍野（2016）によると，動名詞には以下の（12）に示す名詞的機能と動詞的機能の 2 つがある[7]．

（12） a. 名詞的機能：不特定な場面の一般論
b. 動詞的機能：特定の場面の想起による継続 （龍野 2016: 121）[7]

（12a）については安田（1970）[8] を援用しつつ，（13）の reading books では一般論としての読書を指しており，それは後続する「今は読みたくない」という状況の説明から帰結されると述べる（龍野 2016: 114）[7]．

（13） I like *reading books*, but I don't like to read a book now. （龍野 2016: 114）[7]

一方で（12b）に関して，（14a）の locking the door ではドアに鍵をかけている情景が想起され，（14b）の working on a Sunday では実際の労働による心身の疲労，休日にもかかわらず働いたという事実等が想起されるとしている．そして，これらを to lock the door，to work on a Sunday と書き換えると，そのような想起は無くなると指摘する（龍野 2016: 119-121）[7]．

（14） a. I remember *locking the door*.
（龍野 2016: 113, 115, 120）[7]
b. Just back from the office. I hate *working on a Sunday*. （龍野 2016: 116, 119, 121）[7]

3. 動名詞が後続する際の前置詞 at, on，in の意味的ふるまい

前節までに前置詞 at，on，in の場所義と時間義，及び動名詞の機能を確認した．これらをもとに，3 節では，1 節の（2）に示した動名詞が後続する場合の前置詞の意味を分析する．下記の（15）に

例文（2）を再掲する．

（15） a. At *hearing his name*, Bill turned back as he walked.
b. On *getting out of my car*, I noticed I'd shut the key inside.
c. In *buying a car*, what points are important?
（＝（2））

まず，（15b）の on 動名詞と（15c）の in 動名詞について，小西（1976: 234-235）は次のように説明する[9]．on 動名詞は when 節や as soon as 節に相当し，（16）ではロンドンに到着したこととホテルに行ったことには時間的差異がほとんどないとのことである．

（16） On *reaching London*, he went to a hotel.
（小西 1976: 234）[9]

一方で, in 動名詞は when 節や while 節に相当し，（17）では掃除していた過程で発見したという行為が生じたことが示される．

（17） She discovered the missing packet in *turning out a cupboard*. （小西 1976: 235）[9]

これらは 2 節で確認した on の接触と in の境界に合致する．すなわち，前置詞句内の動名詞で示される出来事と主節で示される出来事の関係性について，on では前者と後者が接触しており，in では前者の中に後者が含まれているということである．これは次の（18）の対比からもわかる．（18a）ではドアを開いた後に足音が聞こえているが，（18b）ではドアを開けた後に鍵を壊したのではなく，ドアを開ける際に鍵を壊している．

（18） a. On *opening the door*, I heard footsteps.
b. In *opening the door*, I broke the lock.
（小西 1976: 235）[9]

ただし，ここで on と in は時間義のように扱われているが，動名詞が指す状況によって，それらの時間義としての解釈のされ方は異なる．例えば，（15c）の in buying a car は具体的な車の購入場面というよりも一般論としての車の購入過程を指していると考えられる．龍野（2016）のいう動名詞の名詞的機能（＝（12a））である[7]．ここには車を購入するのがいつなのかという情報は含まれていない．あくまでも車を購入する抽象的なプロセスが示唆されるだけであり，それが時の一種として解釈される．

対照的に（18b）の in opening the door は，ドアを開ける際に鍵を壊したという文脈内容を考えると，具体的な場面の想起が続く．龍野（2016）における動名詞の動詞的機能（＝（12b））である[7]．具体的な場面が想起され，その状況が生じる時間に言及される．これは田尾（2022）が指摘する場所と時間の混在事例に当てはまるものである[5]．

次に（15a）のような at 動名詞の場合である．（19）として例文を再掲する．

（19） At *hearing his name*, Bill turned back as he walked. （＝（2a, 15a））

小西（1976: 236）は when の意味に加え，to see/hear/know などの原因，理由の不定詞句に相当したり，怒り・喜び・驚き等の感情の対象を示したりすることが多いと述べる[9]．確かに，（19）の at hearing his name は自分の名前が聞こえたことが原因となって振り返るという動作が続いている．そしてこのような性質が備わっているため，at 動名詞は文頭に生じにくく，（20）のように共起する動詞または形容詞の直後に置かれるケースが普通だと小西は指摘する[9]．

（20） We were surprised at *finding the house empty*.
（小西 1976: 234）[9]

ただし，Corpus of Contemporary American English（COCA）で検索すると（2022 年 10 月 27 日現在）[10]，文頭での on 動名詞や in 動名詞と比べると種類やその使用頻度は少数ながらも文頭で

の at 動名詞は散見され，それらは原因や理由，感情の対象を表していないことが確認された．（21）に採取された事例を示す．（21a）は植物を植える際の一般的な話であり，（21b）は飛行機が着陸する際の具体的な状況が描かれている．

（21） a. At *planting*, seed is slotted into a groove cut into the soil.
b. At *landing* there may have been as little as 30 seconds of fuel remaining. （COCA）

（21）のような文がわずかではあるが確認されたことについて，上述の小西（1976）のみでは説明が及ばない．そこで，2.1.1 節と 2.2 節で確認した前置詞 at の意味および動名詞の機能をもとに，文頭で使用される at 動名詞を改めて考察する．at は場を点のように抽象化，曖昧化するということであった．at 自体は特定の場所に焦点を当てるだけで，その場所の説明において接触や境界といったように何らかの制約を付与するものではないという点で意味が希薄であり，一般論や具体的場面の想起の継続といった動名詞の名詞的あるいは動詞的機能を伴って状況説明を開始することにはあまり向いていないのだと考えられる．ただし，（21）のような特定の事例では容認される場合もある．ここでの planting や landing は動名詞よりも名詞化が進んだ表現であるといえるかもしれない．なお，小西（1976）が指摘する原因や理由，感情の対象はまさに具体的場面の想起に関わる要素である．そのため，上記の説明は小西（1976）が指摘する文頭の at 動名詞が適さない理由をも包含するものになっている．

他方 on や in は，接触や境界など，at と比べて制約を付与してより具体的な意味が備わっているために，文頭において動名詞の機能を導入するのに支障がないのだと考えられる．

4. 前置詞 at の特異性

前節の後半では動名詞が後続する前置詞 at の機能について議論したが，場を点のように抽象化，曖昧化する at と一般論や具体的場面の想起の継続に関わる動名詞との組み合わせにはもう一つ注目すべき点がある．それは，at は点としてまとめ，抽象化するのにもかかわらず，その逆の操作ともいえる具体的場面の想起を誘発する動名詞を従えることがあるという事実である．

例文（22）はその事例である．（22a）は飛行機が着陸する際の具体的な状況，（22b）は具体的な判決場面における様子，（22c）はピストルを撃つ具体的な状況をそれぞれ示している．ここでの at は，動名詞が表す行為や出来事を点としてまとめるというよりも，それらがもたらす想起の展開に向けて前置きを述べている．となると，この at は抽象的な場という意味をもって，動名詞が表す状況を緩やかに導入するという文法化現象の一種だと考えられる．そしてそれが時間のように解釈され得るということである．これは田尾（2022）による場所と時間の混在事例の一種であると見なせるだろう[5)]．

（22） a. At *landing* there may have been as little as 30 seconds of fuel remaining. （＝（21b））
b. At *sentencing*, Zac's mother said the crime against her son made her feel like she'd failed him.
c. At *shooting a pistol* no one can touch him. （COCA）

5. まとめ

本稿では，動名詞が後続する前置詞 at，on，in の意味について，認知意味論的観点から，動名詞の機能をもとに再検討した．特に文頭で動名詞が後続する場合，on と in についてはそれぞれの接触と境界という具体的な意味と動名詞が指す状況により，時間義の解釈が多様になることを確認した．そして，文頭で動名詞が後続する at は「点」というよりも抽象的な「場」の意味を有しており，それが時間義のようにも捉えられると考える方が良いのではないかということを主張した．その他の前置詞が有する場所と時間の関係性の再考につ

いては今後の課題としたい.

文献・データソース

1）山口治彦（2011）「at/in/on の意味論：意味拡張と語用論的分業」『神戸外大論叢』62（2），137-155.

2）安藤貞雄（2012）『英語の前置詞』開拓社.

3）小西友七・南出康世（編）（2001）『ジーニアス英和大辞典』大修館.

4）井上永幸・赤野一郎（編）（2015）『ウィズダム英和辞典　第 3 版』三省堂.

5）田尾俊輔（2022）「英語前置詞 at の〈場所〉義と〈時間〉義の意味的関係に関する考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2021：認知・機能言語学研究Ⅶ』，31-40.

6）齋藤秀三郎（著）・中村捷（訳）（2015）『実用英文典』開拓社（原著：Saito, Hidesaburo（1932）*Practical English Grammar*. The S.E.G. Press）.

7）龍野祐輝（2016）「動名詞の意味の多様性―多様性の原因と意味の根幹―」『信州大学教育学部研究論集』9，113-122.

8）安田一郎（1970）『ＮＨＫ続基礎英語　英語の文型と文法』日本放送出版協会.

9）小西友七（1976）『英語の前置詞』大修館.

10）Davies, M.（2008-）. *The Corpus of Contemporary American English: 425 million words, 1990-present*. Available online at https://www.english-corpora.org/coca/.